

受理日	血対番号	感染症(PT)	出典	概要	
2005/11/22	50168	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Nature Medicine 2005;11(9):982-5	異常プリオンを正常プリオンで増幅するPCMA法というvCJDの新スクリーニング法をテキサス大が開発し、脳内接種によるスクレイピーハムスターを用いた実験で血液中の異常プリオン検出に成功した。標準的な検出方法で140PMCAサイクルで感度が6600倍上昇する方法。症状発現前の動物から採取した血液での検出、血漿や分画成分での検出について今後の課題。	27
2005/10/27	50143	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	EMEA/CHMP/BWP/GPMP/5136/03/ 2004年10月	vCJDリスクに関して血漿分画製剤の製造工程の安全性評価方法のガイドライン	
2005/10/27	50142	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Current Opinion in Biotechnology 2005;16:1-7	ウイルス、TSEに関する生物由来製品の安全性に関する総説。ノンエンベロープウイルスの分画での除去効率が低いことに伴う効果的不活化の研究開発の課題。TSEのより確実な除去方法の開発の課題と供血者のスクリーニングによる感染確保の重要性。	28
2005/10/27	50143	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J of Virological Methods 2005;125:187-93	二次抗体を使用しない直接ウエスタンブロット法によるプリオン検出法の開発。これにより、感度を維持しながら、非特異的バンドの出現を減少させることが可能であり、血漿分画製剤の製造工程における病原性プリオン除去能の評価に有用。	29
2005/9/22	50106	トリパノソーマ症	IASR 2005;26(5):124-5	2004年以降インドでヒトのトリパノソーマ症が発見された。	
2005/9/22	50105	トリパノソーマ症	ProMed2050402-0020(O Folha online)	ブラジルでサトウキビジュース摂取が原因とみられるトリパノソーマ集団感染発生した。	
2005/9/22	50106	ニパウイルス	Health and Science Bulletin,2(2),2004	2004年2月19日～4月16日にバングラदेशFaridpur地区の住民36人がニパウイルスに感染し、27人が死亡した。患者23人の血清中にニパウイルスのIgM抗体が確認され、患者数名の喉拭き取りサンプルからニパウイルスRNAが検出された。濃厚接触のあったこれらの患者の家族間などに飛沫感染によると思われるヒトからヒトへのニパウイルス感染拡大が見られた。	
2005/9/22	50104	パルボウイルス	Transfusion.2005;45(6):1011-9	ウイルスバリデーション試験でのヒトパルボウイルスB19(B19)の感染性の定量的分析のために、B19特異性のLC RT-PCRが開発された。乾燥加熱不活化におけるヒトパルボウイルスB19検出のための新規Cycler-RT-PCR法による感染性検査の評価によると、B19をスパイクし凍結乾燥させたフィブリンの残余水分量は乾熱処理に対する抵抗性に関連すること、また、残余水分が低値の場合ウイルスが熱に対して安定化するかもしれないということが示唆されている。凍結乾燥フィブリノゲンにB19を添加し乾燥過熱処理(100°C)工程におけるB19の不活化効果がB19特異性LC RT-PCRを用いて調査された。凍結乾燥フィブリノゲンの水分含量が乾燥加熱処理におけるB19の異なる耐性と関係しており、ウイルスにとっては水分含量が低い方が熱に対して安定と思われる。	
2005/9/22	50106	ハンタウイルス	Microbiology and Immunology 2004;48(11):843	2000年～2003年の日本各地におけるげっ歯類のハンタウイルス感染についての疫学調査結果。	